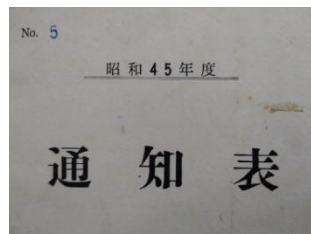




通知表を読む



【通知表の思い出】終業式に担任から子どもがもらう通知表。保護者の皆様も、子どもの頃の様々な場面が、ご記憶にあるのではないのでしょうか。私も小学生の頃の通知表で思い出すことがあります。

担任の所見は、いつも気になるところ。小学校3年の1学期末は「明るくまじめで、決められた仕事をやり遂げることができます」でしたが、2学期末「自分のことは極めて忠実に責任を果たしますが、友達をいたわる心の広さと学級をまとめる力強さがほしい」とありました。「極めて・・・」で褒められた感じて喜んでいたら、親から、評定5に至っていない教科を頑張れだとか、担任の所見欄の「～あるが、～ほしい」の「が」の後が付かないように、と言われたように思います。このような「が」付きのコメントは、私が6年生まで続きます。私には、兄弟がいなく、自分の行動の自覚も、担任所見をもとに変えていく勇気や自信もなく、漫然と日々を過ごしていた気がします。教科ならば、授業中の発表やテストや宿題をがんばるなどと想像つくのですが、日常の行動は、どうすれば「が」が取れるか、誰も教えてくれなかったし、自分で考えてもみなかった気がします。

リーダー性を発揮するような勇気や自信は、すぐ持てるはずもなく苦手なままでしたが、少し新聞や本を読むようになって語彙が増え、書くことはやや得意になり、新聞係、新聞委員会で出した新聞を褒められ、文字で発信ができることに少し自信が付いて、中学校へ進学しました。

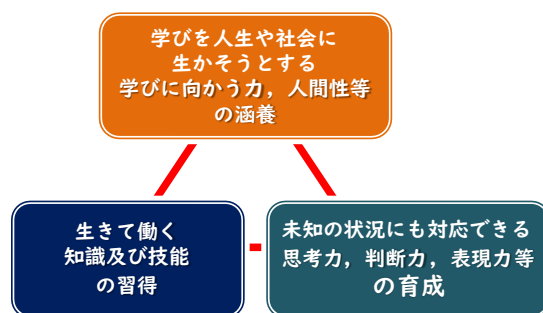
【今の学習評価】3年前、我が国の小学校の教育課程の基準である学習指導要領の改訂等に伴い、全教科が、育成すべき資質・能力の3つの柱として整理されて、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」をバランス良く育てていくようになりました。またその評価については、本校の通知表の各教科にもあるように、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習する態度」の3つを観点として学年毎に、3段階で評価しています。

「知識・技能」は、従前のようにテストで評価しやすいのですが、「思考・判断・表現」「主体的に学習する態度」の評価は、なかなか難しいところです。

「思考・判断・表現」は、各教科でねらう、比較する、関連付ける、抽象化するなどの思考力が働いたかを、単元末テストのほか、ノートやロイロで提出された文章の記述などから見取ります。

「主体的に学習する態度」は、単に、授業中の挙手回数などにとどまらず、授業中の「粘り強さ（できるまで諦めないなど）」や「学習の調整（間違えても別な方法で考えるなど）」などの様子

育成すべき資質・能力の3つの柱



⇒裏面に続きます

を、それが、単元が変わっても、続けて現れているかで判断します。

各教科の3観点とも、「よくできる・できる・もうすこし」の3段階を設定しています。大事なことは、各教科の3観点とも、まず、「できる」を超えることが大切です。「もうすこし」にいる人は、夏休みに復習したり、二学期の学習で努力したりすることが必要です。「できる」にいる人は、時々間違えたり、記述の内容が少なかったり、単元によって苦手があったりがあると考えられます。「よくできる」を目指して、休業中の課題や、二学期の宿題を丁寧に、理解するまで行うよう進めてほしいと思います。「よくできる」にいる人は、努力を自信にし、探究する学びを続けて下さい。

本年度、＜学習の取り組み＞は省きましたが、各自のよさや課題を、＜担任から＞に文章で具体的に伝えることとしました。また、裏面には、明星小学校の子どもたちが、卒業までに共通して育てほしい姿として日々大事にしています、学校教育目標及び目指す子ども像を掲載しました。

【評価の見方】さて、終業式にお渡しする通知表に各担任が整理しました、お子様の今の様子について、次のような見方でお子様とお話しできれば幸いです。(参考「学習評価」田村学著)

1つ目は、長い目で見ること。お子様の姿を時間軸で関連付けて継続的に見ることです。

例えば、国語の思考・判断・表現は、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことについての能力の1学期間の様子です。昨年「できる」だったものが「よくできる」になっていれば、がんばった証拠です。でも逆のケースもあるはずです。発言したり、テストの解答を書いたり、宿題をする際に、比べて考える、関連付けて考える、根拠を複数考えるなどに気を付けたらどうでしょうか。



2つ目は、広い目で見ること。お子様の姿を空間軸で関連付けて多面的に見ることです。

特に、生活科や家庭科、音楽科、図工科は、授業中での学習活動はもとより、「生活を豊かにする」ことを目指す教科で、日常生活へ生かし豊かさを感じることを期待します。

休み時間の様子や、家庭での実践なども評価の参考にするのはそのような理由です。また、算数の数値やグラフの読み取りに課題がある場合、理科、家庭科、体育など他教科でも引っかかることがあります

ので、できるだけ、買い物や商品を選ぶ際に、数値や割合やグラフを読む（お得さなど）を一緒に行うなど、日常生活につなげることも。



3つ目は、基本の目で見ること。お子様へ願う姿を、付けたい力を元に具体的に描くことです。

授業中に何度も発言していても、「よくできる」ではなく「できる」

になることがあります。各教科では、各教科の専門的な内容や、本校教育目標に鑑みて、付けたい力への到達状況から見て「伸びしろ」があるからです。「もうすこし」や「△」があった場合、担任も、二学期以降の指導において、「基本の目」で見ながら発言や記述の内容を高めるよう指導を考えます。ご家庭でも、実験の時に～、話し合い時に～、挨拶では～、宿題では～等、夏休みから二学期に頑張ることを話し合ってみて下さい。



明日は、皆様の通知表の思い出なども紹介しながら、お子様の有意義な夏休みをご計画下さい。